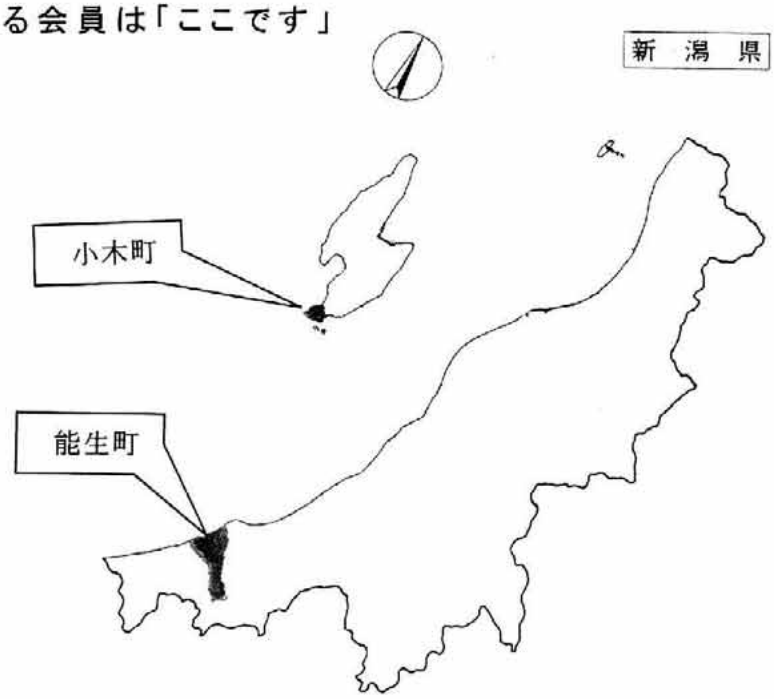
平成11年10月号（通巻23号）

に　ぎ　わ　い

－日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信－

今回、ご紹介する会員は「ここです」



『我が町「小木町」を語る』

小木町役場　建設課長　羽生　護　氏

佐渡ヶ島の最南端、民謡『佐渡おけさ』発祥の地、『たらい舟と千石船の里』の我が町は、佐渡ヶ島10市町村の総面積 856km2の約3％の25．95km2と島内では1番面積の小さい町です。

佐渡金山（相川金山）が、西暦1601年に発見され『佐渡奉行』を相川町に設置、江戸幕府 約300年の財政を支えた『金銀』の積出し港として、1631年小木港が佐渡奉行『竹村九郎右エ門』により、幕府の指定港になってから大変栄えた港町であります。

当時、大阪は堺港を出港した『千石船』は瀬戸内海を南下し、関門海峡を通り日本海に抜け、北海道に向け北上するところから、この船を『北前船』と呼び、また、この航路を『西廻り航路』と呼ばれました。小木港は、西廻り航路のほぼ中間地点に位置し、寄港地として重要な港として大変賑わい、今日の重要港湾にまで結びついてきました。この『千石船』によって、物資の運搬もされましたが、多くの有

形無形の文化が運ばれたことは、計り知れないところであります。

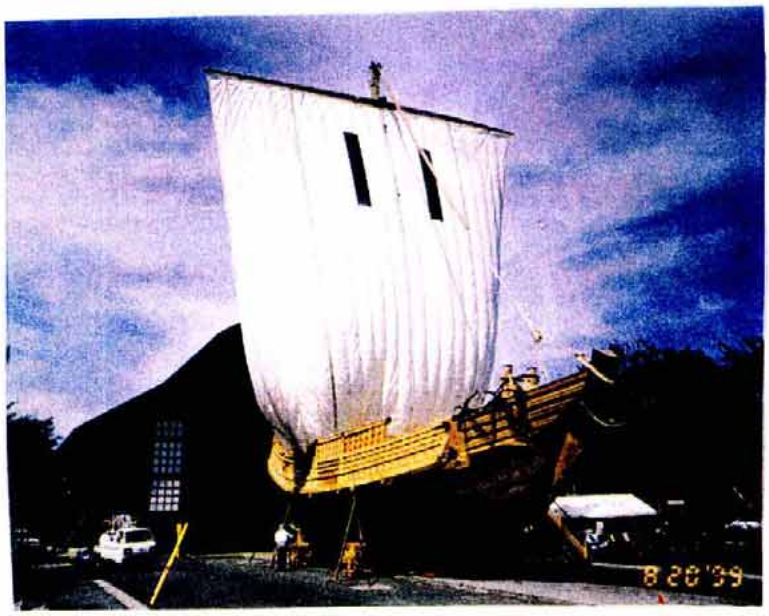
日本海側の航路が、当時何故に重要視された要因は気象条件であります。当時の日本式帆船は、西洋のヨット方式と違い、風に向かっての航海が出来にくい方式から、風に大きく影響されました。
地球の自転により、日本の気象は西から東に移動し、風も西から東に、海流も『黒潮』が、四季の変化による海水温度の変化と共に北上、南下する等の自然の摂理が航海に大きく影響しました。そのために船が遭難しても、支那（中　国）や朝鮮、ロシア等の外国沿岸に流れ難い航路で北海道への最短距離であるところから、日本海側航路を多く利用した決めてになったと思われます。

千石船の船員は、当時『かこ＝水夫』と言われたそうですが、全国の港々に寄港し、時には積み荷期間であり、または、気象条件と自分の船が航海出来る条件が満たされるまでの時間待ちの間に、多くの文化が伝承されたと思われます。

我が町には、佐渡一番にその船員が残してくれた文化が今も数え切れない程残っています。

千石船の運んだ文化の一つに各地方の歌がありますが、今回は、全国的に有名な民謡『佐渡おけさ』の元歌である『小木おけさ』を紹介します。

当時、佐渡一番に栄えた『小木港』は、佐渡奉行の進めにより多くの旅籠や船宿に、仲居から芸者まで約 ４００人を数えたそうです。そこで、酒を呑み、歌い語り明かした中で『九州地方のハイヤ節』が歌い継がれ『小木おけさ』が生まれたと聞いています。踊りは、『十六足の輪踊り』と男女ペアーで踊る『組み踊り』があります。唄、太鼓、三味線、笛、拍子木等のテンポが早く、リズミカルなところから、最近の若者にも大変人気のある民謡です。



８月１４日から１６日に開催される『盆踊り』や約 ３８０年間、毎年８月２８日から３０日に行われる『小木港まつり』には、町民・帰省客等多くの者が徹夜で踊り歌い明かしています。

また、県内各港に歌い継がれたのが、新潟港の『新潟おけさ』、柏崎港の『柏崎おけさ』、出雲崎港の『出雲崎おけさ』として今日に残っています。

『小木おけさ』を運んでくれた、全長２３．７５ｍの千石船『白山丸』の復元船も完成し、文化財と観光の目玉が追加されました。

２１世紀に向けて、我が小木町はマリンタウン（港町）として『伝統と文

化の織りなす、優しい住みよい町』を目指し町造りに努力している所です。
港町、小木町へ皆様、多数の来町をお待ちしております。

観光と歴史　出逢いの町　小木町観光ガイド

●小木港祭り　OGI PORT FESTIVAL

昔、初代の佐渡奉行が海上の安全を祈願し、木崎神社に米を寄進したのが始まりで、8月28日から3日間盛大に祭りが行われる。港祭りの行事は、大獅子舞、小獅子舞、鬼太鼓、神輿渡御、花火大会、大提灯など盛りだくさん。なかでも小獅子舞は、夫婦の獅子と、小獅子の3体が1組となって胸につけた小太鼓を打ち鳴らしながら舞うもので、県無形文化財である。

問：☎86-3111

●たらい舟
TARAIBUNE

佐渡の最南端に位置する小木町沢崎集落で、岩礁と小さい入江が多いところから、江戸時代から生活の知恵として生まれたものである。毎年8月29日の小木港祭りの行事に「タライ舟競漕」を行っている。観光用にも利用され人気をよんでいる。

●海潮寺・御所桜
KAICHOJI (TEMPLE)
GOSHO CHERRY TREE

海潮寺の境内にある桜の名木。花は「匂い桜」であり、順徳上皇お手植えとされ、国の天然記念物です。開花期には優雅な香りがただよいます。

問：☎86-2305

●千石船の里
宿根木　SYUKUNEGI

かつて「和船の里」、「船大工の里」として栄えた村で、船板をはめ込んだ民家や石畳の路地、海岸に残る船つなぎ石など、昔の面影が色濃く残っている。なおこの地区は国重保存地域となっている。

公開施設「清九郎家」

●アースセレブレーション
EARTH CELEBRATION

佐渡を拠点に、太鼓を中心とした伝統的な音楽芸[illegible]の再創造を行っている集団、「鼓童」と小木町が[illegible]ことなって毎年開催する国際芸術祭です。メイン[illegible]堀の城山公園は小木港を一望できる岬の台地で、[illegible]折々の季節には、椿、桜、ひまわり、つつじなど[illegible]華花が咲き乱れます。

問：☎86-363[illegible]

（小木町観光ガイドより）

能生町

能生町は、新潟県の西端部にあって、海、山などの美しい自然が豊かで、四季の変化が明瞭な町です。町内には3つの漁港があって、県内で屈指の水揚高を誇っており、中でもベニズワイガニの直売は能生町の名物として全国的に知られています。

能生海岸付近一帯は、久比岐県立自然公園に属し、名勝弁天岩を代表する岩礁帯が広がっています。また、国の重要文化財に指定されている白山神社（本殿）を始め、姫春蝉北限の生息地として重要な尾山樹林、そして県内最大級の漁獲高を誇る能生漁港にも接しています。

● 能生海岸公園

能生海岸公園は、全体で15．5haの広さがあり、園内の中心施設であるマリンドリーム能生は、「道の駅」・「日本海夕日ステーション」として魅力いっぱいの国道8号線のオアシスとなっています。

マリンドーム能生

● マリンドリーム能生

マリンドリーム能生には能生町観光物産センターをはじめ、鮮魚センターや能生特産のベニズワイガニの直売店が並ぶ「かに屋横丁」、レストランなどがあり、おみやげ、特産品などのショッピングはもちろん、とれたての海の幸たっぷりの食事を楽しむことができます。

かに屋横丁

その他にも能生マリンホール（多目的ホール）、すぱーく能生（室内スポーツ施設）、能生B＆G海洋センタープール、展望台、夕日公園、海の資料館「越山丸」、彫刻の小径（16点の近代彫刻）、キャンプ場、風力発電「巨大風車」などが一堂に集まり、遊びきれない楽しさいっぱいのレジャースポットです。

● 海の資料館「越山丸」

海の資料館「越山丸」

「越山丸」は新潟県教育委員会に所属し、県立能生高校、両津高校の水産実習船として多種最新鋭機器類を備え、快適な居住性と、安全のための十分な配慮がなされており、国際航海も行える優秀船です。数多くの航海実習の実績を残し、活躍してきた越山丸は、平成6年11月をもって、廃船となりましたが、この船は能生町にある海洋高校の実習船として能生町民には大変親しみが大変親しみがあるため、新潟県より譲り受け、海洋公園東側岸壁に「海の資料館」として保存、展示したものです。世界の海で活躍した、全国でも珍しく、貴重な実習船に乗船して海洋気分を満喫することが出来ます。

● 奴奈川大ウスまつり

かつてこの地を治めた美しい「奴奈川姫」。出雲の「大国主命」が姫の噂を聞き、はるばる求婚に訪れ、ケヤキを祀りました。

1700年の時を経て大木に成長したこのケヤキ。ところが、ある日の落雷で木は倒れ、町民は悲しみのあまりこの木で大ウスを作ったそうです。

大ウスでモチをつき、神々を奉る食文化は、全国へと伝わっていきました。年月が経ち、このウスは無くなってしまいましたが、平成8年に「この神話の舞台である能生町で世界一の大ウスをつくり、地域活性化に活かしていこう」と能生町の若者たちの手で再びそのウスが現実しました。この世界一の大ウスは、直径2．5m、重さ8t、高さ1．5mで1．5俵のモチを100人でつくという大迫力。

奴奈川大ウスまつりは、毎年10月に行われる「のういきいきまつり」のメインイベントとして行われ、神話の主人公である「奴奈川姫」と「大国主命」を募集し、選出されたカップル1組が古代服をまとってのセレモニーが行われた後、マリンドリーム能生内の広場にて大ウスによるモチつきが行

われます。つかれたモチは、見物客等に振る舞われ、つきたてのモチを味わうことが出来ます。

（能生町役場　総務課）

編集後記

会員の皆様方に、お願いいたします。
どこの担当の時でも、どんな内容でもかまいませんので「にぎわい通信」への投稿を会員の皆様にお願いします。
積極的にこの紙面を利用し地域の紹介の場として利用願います。

編　　集

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局
第一港湾建設局　企画課内　TEL　025－265－7781
FAX　025－230－3680